



「あつ、えつと続きですよね。それで、人間との共存が難しいと考えたわたしたちは、星を丸ごと化かすような幻術をかけました。」  
 「幻術？」  
 「そうです。六匹の大妖怪が集まり、人間の記憶から我々妖怪、妖魔の存在を消し去る大幻術をかけ、それから我々は人に紛れて共に生活をしようになつたらしいです。」  
 「はー。それはまた、何とか。」  
 「その後もしばらくは大変だったと大おばば様は言っていました。まあ、そうですね。わたしみたいな奴を受け入れられないですよね。」  
 崩した太ももの上に溜息をつく美禄を見て、番才は即席でも言葉をかけてあげることができなかつた。  
 降りしきる雨の中、番才と美禄はベランダの窓を開け廊下に腰掛けていた。昨日の晩から降り始めた雨は一晩経つても勢いが衰えることはなく、宿全体の色味を濃くさせていた。美禄とのカウンターでのやり取りから一週間

「	は	い	。	わ	た	し	あ	ん	ま	り	陽	の	光	の	下	に	出	た	こ
の	で	す	ね	。」															
か	ら	。	だ	け	ど	、	や	っ	ぱ	り	こ	れ	は	こ	れ	で	良	い	も
「	雨	は	降	ら	な	い	と	勝	手	に	思	い	込	ん	で	い	ま	し	た
「	ど	う	し	て	で	す	か	？	」										
で	す	が	、	な	ん	か	新	鮮	な	気	が	し	ま	す	。」				
	「	そ	う	で	す	ね	。	こ	こ	に	来	て	か	ら	雨	は	初	め	て
め	る	優	し	い	音	を	拾	っ	た	。									
場	の	雰	囲	気	を	こ	れ	以	上	暗	く	し	な	い	よ	う	に	と	努
て	弾	け	る	無	数	の	破	裂	音	の	中	か	ら	、	弱	々	し	く	も
を	痛	め	て	い	た	番	才	は	、	注	ぐ	水	滴	が	物	に	当	た	っ
さ	れ	そ	う	な	声	で	美	禄	が	呟	く	。	美	禄	の	心	情	に	胸
足	を	伸	ば	し	空	を	見	上	げ	な	が	ら	、	雨	音	に	か	き	消
	「	止	み	そ	う	に	な	い	で	す	ね	。」							
ろ	う	と	し	て	い	た	と	こ	ろ	で	偶	然	に	鉢	合	わ	せ	た	。
た	い	だ	が	、	雫	が	ま	だ	寝	て	い	た	か	ら	と	自	室	へ	戻
っ	た	美	禄	は	、	今	朝	も	雫	の	部	屋	に	や	っ	て	来	た	み
っ	た	雫	と	も	今	で	は	部	屋	の	行	き	来	を	す	る	仲	に	な
う	に	な	っ	た	。	初	め	は	怯	え	て	話	ど	こ	ろ	で	は	な	か
が	経	ち	、	そ	れ	か	ら	顔	を	合	わ	せ	れ	ば	話	を	す	る	よ

湧	無	の	自	と	や	女	や	あ	戦	な	傷		今	和	も	い	ぬ	胸	と
き	い	抱	分	戦	苦	将	な	の	っ	も	を		は	ら	、	い	よ	に	が
出	°	え	の	い	し	の	の	子	て	の	負		少	い	、	し	う	に	な
る	し	る	こ	立	み	言	さ	た	い	の	っ		し	で	、	ば	に	走	い
思	か	閨	と	ち	は	葉	°	ち	る	さ	て		だ	い	、	る	、	る	い
考	し	中	と	向	共	が	け	が	っ	。	い		微	°	、	番	、	締	の
を	、	で	し	か	感	番	ど	引	て	。	る		笑	。	お	才	、	め	で
破	閨	、	考	か	す	才	ね	か	こ	本	者		ん	。	多	は	付	け	。
裂	の	自	え	お	る	の	、	れ	と	人	た		で		福	は	け	る	。
音	前	分	る	う	こ	中	傷	合	は	に	ち		い		の	ね	よ	う	。
が	で	に	こ	と	は	で	跡	う	は	し	は		る		ま	、	う	な	。
心	な	可	と	し	で	可	は	の	分	か	は		よ		で	誰	入	い	。
地	ら	何	が	て	い	な	分	も	か	わ	誰		う		と	も	れ	い	。
良	か	か	で	る	る	い	り	不	合	か	が		に		比	心	。	痛	。
く	が	が	可	こ	が	る	響	思	え	ら	心		見		べ	に	み	。	。
包	で	で	可	と	い	る	く	議	る	な	深		え		と	を	を	。	。
み	可	可	可	は	る	は	。	な	も	こ	い		た		自	食	。	。	。
込	可	何	。	理	が	。	。	こ	の	と	厄		。		然	。	。	。	。
ん	と	も	美	解	、	痛	。	じ	さ	。	介		。		と	。	。	。	。
だ	。	。	禄	し	。	。	。	。	。	。	。		。		。	。	。	。	。

つ	と	じ	美		に	を	そ	す	「	時	番		く	縫	う	と	と	に		会
た	顔	よう	禄	「	挨	手	れ	」	あ	に	才		と	う	を	と	染		話	
か	を	に	は	お	拶	櫛	ほ		っ	お	の		雫	よ	そ	ま		は		
と	上	丁	立	、	を	で	ど		、	お	そ		が	う	う	っ	一			
番	げ	寧	ち	お	し	整	乱		は	は	の		部	不	た		度			
才	た	に	上	は	た	え	れ		よ	よ	声		屋	思	た		そ			
は	見	に	が	は	。	な	て		う	う	に		か	議	木		こ			
微	て	挨	り	は		が	い		に	に	気		ら	な	々		で			
笑	、	拶	着	よ		ら	る		気	美	付		出	癒	を		途			
ま	や	を	物	う		、	よ		い	禄	い		て	し	眺		切			
し	は	返	の	に		雫	う		た	は	た		来	に	め		れ			
い	り	した	裾	。		は	に		は	同	た		て	浸	て		、			
気	視	「	を	「		手	は		は	時	に		い	っ	い		番			
持	線	え	直	え		を	見		よ	に	反		と	て	た		才			
ち	は	っ	し	え		前	え		う	応	し		、	い	。		は			
に	床	！	な	っ		に	な		、	同	、		振	た			雨			
な	に	？	が	っ		組	い		ご	時	同		り	い			で			
っ	あ	」	ら	」		み	ま		ざ	に	同		向	た			深			
た	あ		、			丁	ま		い	同				よ			緑			
。			同			寧	ま		ま					よ						



それ	「	た	が	場	凧	な	手	「	す	優	し	う	慌	で	大	「	抜	ら
れ	・	。	出	に	は	く	に	あ	、	し	て	に	て	す	丈	い	け	ぬ
ぞ	・		来	立	更	て	、	あ	す	さ	し	手	た	夫	、	だ	詮	
れ	・		上	ち	に	。	そ	あ	す	に	ま	を	は	で	と	索	や	
が	で		が	尽	踏	ご	の	。	い	え	っ	伸	足	き	い	勘	繰	
何	は		り	く	み	っ	。	そ	い	つ	、	出	踏	っ	、	り	を	
度	は		、	し	出	、	ん	な	っ	あ	あ	し	み	。	あ	あ	し	
も	、		雨	俯	し	両	な	つ	、	あ	あ	、	、	あ	あ	、	て	
顔			の	い	手	手	。	わ	。	あ	あ	、	心	あ	あ	、	も	
を			音	て	を	伸	。	。	。	。	。	。	を	。	。	。	無	
見			が	い	ば	す	。	。	。	。	。	。	引	。	。	。	理	
合			異	る	。	全	。	。	。	。	。	。	き	。	。	。	は	
い			様	と	員	が	。	。	。	。	。	。	止	。	。	。	な	
、			に	い	。	そ	。	。	。	。	。	。	め	。	。	。	い	
表			大	う	。	の	。	。	。	。	。	。	る	。	。	。	。	
情			き	奇	。	。	。	。	。	。	。	。	よ	。	。	。	。	
と			く	妙	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	
空			聞	な	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	
気			こ	状	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	
感			え	況	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	



驚	続	ね	「	を	い	音	地	ひ	か	「	れ		将	カ	す	「	後	宿	た
き	く	え	今	感	な	と	面	さ	？	そ	た		の	タ	が	い	ろ	の	い
、	女	。	晩	じ	の	は	を	し	」	れ	だ		隣	ン	、	を	入	じ	
雨	将		、	た	か	似	抉	か		だけ	け		に	と	振	口	口	ゃ	
が	の		あ	。	、	て	り	ら		で	嬉		立	札	り	の	の	な	
一	口		ん		番	い	池	流		嬉	し		っ	を	返	ひ	ひ	い	
段	か		た		才	つ	が	れ		い	い		た	板	る	さ	さ	か	
と	ら		に		は	か	で	落		か	か		。	に	こ	し	か	い	
強	紡		お		女	ぬ	き	ち		ら	ら			掛	も	か	ら	。	
く	ぎ		願		将	雨	て	て		ま	。			け	な	そ	外		
降	出		い		の	が	く	く		あ	。			な	が	う	を		
り	さ		し		雰	奏	る	る		い				ら	ら	く	見		
始	れ		た		囲	で	滝	の		よ				番	。	き	て		
め	る		い		気	る	の	よ		う				才	。	て	い		
た	言		こ		に	別	う	う		な				は		い	た		
。	葉		と		注	の	雨	雨		水				答		。	女		
	に		が		ぐ	音	水	水		が				え			将		
	番		あ		破	の	が	が						、			が		
	才		っ		裂	せ								女					
	は		て																





